



第1節 明日の稲敷を担う

子どもたちを育みましょう!

- 1 質の高い教育・保育及び総合的な子育て支援の充実
- 2 社会を生き抜く力を育てる義務教育の推進

第1章

すくすく子育て学びのまちづくり

第2節 楽しく学び続ける環境を

つくりましょう!

- 1 市民主体の生涯学習社会の構築
(図書館・公民館・青少年健全育成)
- 2 市民が楽しく取り組める生涯スポーツの推進
- 3 地域文化の継承
(歴史・文化財、芸術・文化、国際化・国際交流)





第1節 明日の稲敷を担う

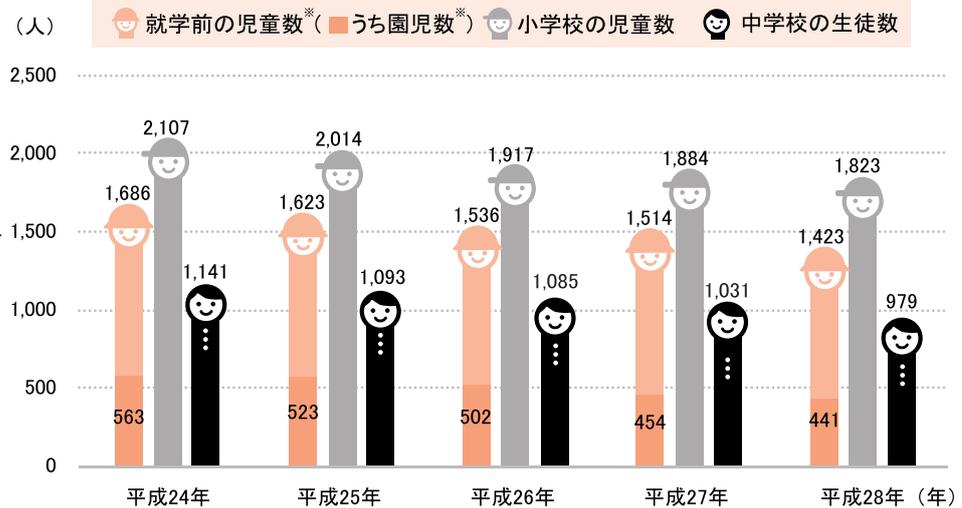
子どもたちを育みましょう!

稲敷の豊かな自然や地域の人と人とのつながり、誰もが安心して子育てができ、次世代を担う子どもたちが夢や希望を叶えられる住んでいて良かったと思えるまちになると良いですね。

そんな子育て・教育環境の実現のため、家庭と地域、学校などが手を取り合い、支え合うまちづくりを進めます。

■ 今の稲敷をみると?

就学前児童・園児数、児童・生徒数



就学前児童・園児数、児童・生徒数は、すべてで減少傾向が続いており、少子化が進展していることがわかります。

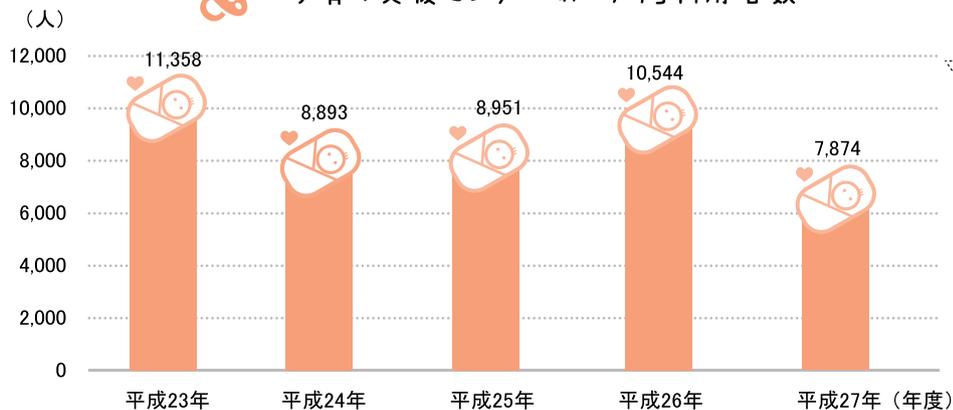
資料 学校基本調査

各年5月1日現在

※就学前児童・園児数は常住人口調査各年4月1日現在、平成28年は住民基本台帳3月末現在
※内園児数は幼稚園及び認定こども園の幼稚園部門の園児数(私立を含む)



子育て支援センター「あいアイ」利用者数



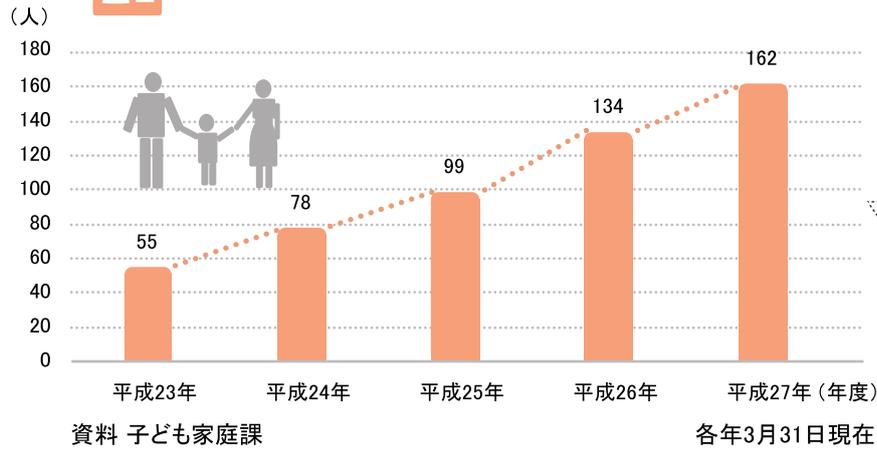
子育て支援センター「あいアイ」は年間7,900人が利用している状況です。稲敷市には「あいアイ」のほか、「ひまわり」「つばさ」「こうた」の計4カ所の子育て支援センターがあります。

資料 子ども家庭課

各年3月31日現在



ファミリーサポートセンターの登録会員数

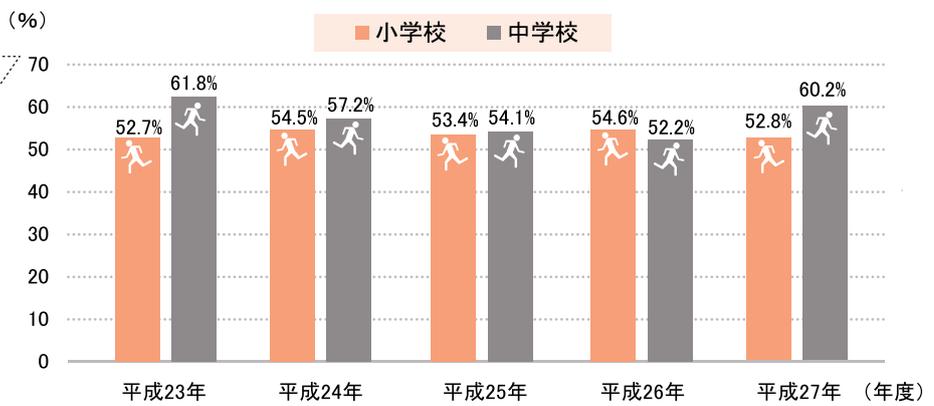


ファミリーサポートセンターの登録会員数は5年間で約3倍に増加しており、子育て世帯の援助に一役買っています。



体カテスト総合評価がAまたはB*の児童生徒の割合

体カテストの総合評価がAまたはBである児童生徒割合の5年間の平均は、小学校で53.6% (県平均53.0%)、中学校で57.1% (県平均60.1%)となっており、中学校では県の値より若干低くなっています。



※握力や50m走、ボール投げなど8種目の得点を合計し、年齢ごとに設定した基準をもとに、AからEの5段階の評価を行っています (A: 優れている B: やや優れている C: ふつう D: やや劣っている E: 劣っている)。AとBの合計の割合の高さは、児童生徒の体力が十分に備わっているかを表すものとなります。

1

質の高い教育・保育及び総合的な子育て支援の充実

子どもが家庭や地域の中で温かく見守られ、幸せにすくすく育つ環境をつくるため、稲敷市ならではの人と人の豊かなつながりを大切にした地域ぐるみの子育てを、積極的に支援します。また、国の動向を把握しながら、保護者のニーズに柔軟に対応し保育と教育を総合的に捉えた子育て支援を進めていきます。

子どもたちの「生き抜く力」の基礎となる自主性・自立性を育むため、幼児期における就学前教育と家庭教育を推進するとともに、幼児教育を小学校教育にスムーズにつなぐ体制をつくります。また、本市の豊かな自然環境を生かした交流・体験活動の充実に取り組みます。

■ 取り組むこと（取組内容）

〔子育て支援〕

①総合的な子育て支援の充実【子ども家庭課・市民窓口課】

- ◇放課後児童クラブと放課後子ども教室を一体的に実施する「放課後子ども総合プラン」の取組を推進します。
- ◇放課後児童クラブを充実させ、待機児童を出さないことを目標とするとともに、入所児童の安全を図るため、現有施設についての調査検討を行い、必要な改修や改築を推進していきます。
- ◇仕事と生活の両立を支援し、安心して子育てができるよう、保育サービスの充実を図ります。また、親の就労実態に対応するための延長保育や緊急時に児童を預かる一時保育、障がい児保育、休日保育（終日）など保育サービスの拡充を図ります。
- ◇子育て世帯の経済的負担を減らすため、認定こども園や幼稚園、保育所の保育料の軽減など子育て環境の向上に努めます。
- ◇保護者ニーズと保育サービス等を適切に結びつける子育て支援コンシェルジュを配置します。
- ◇人口と幼稚園児数が減少するなか、保育所入所児童は増加の一途をたどっている現状を鑑み、将来的な幼児教育施設や保育施設のあり方を検討します。
- ◇親と子の絆を深めることを支援するため、わが子が生まれた感動や喜びをメッセージにして未来へ届けます。

②地域における子育て支援の充実【子ども家庭課】

- ◇在宅の親と子を対象に、子育て中の親子の交流を目的とした市内4カ所の「子育て支援センター」の充実を図ります。
- ◇子育て支援センターにおいて、支援を必要とする子育て家庭をサポートする、ファミリーサポートセンター事業の充実を図るとともに、育児に悩む親に対して、相談事業の充実や子育てサークルの育成支援、子育て情報の提供などに努めます。
- ◇祖父母にも育児に参加してもらうことにより、保護者の子育て負担を軽減するとともに、祖父母が子育てを理解し、協力を得られるよう三世代交流を支援します。
- ◇子育て支援情報サイトなどの子育て情報サイトやアプリの充実を図ります。

③ひとり親家庭等の自立支援の推進【子ども家庭課】

- ◇母子家庭、父子家庭等のひとり親家庭の生活の安定を図り、児童の健やかな成長を支援するため、各種相談体制の充実やきめ細かな子育て支援サービスの提供に努めます。

④児童虐待の防止・根絶【子ども家庭課】

- ◇家庭児童相談員の拡充により、相談体制の整備を進め、児童虐待防止のためのネットワーク体制の充実を図ります。また、関係機関との円滑な連携や協力を引き続き実施し、虐待を受けている児童の早期発見や適切な保護に努めます。

〔幼児教育〕

⑤総合的な幼児教育の推進【教育学務課・子ども家庭課】

- ◇教育、学術、文化の振興に関する総合的な施策の大綱である「稲敷市教育大綱」及び教育の振興に関する施策の基本的な方針である「稲敷市教育振興基本計画」に本市における幼児教育の施策全般を位置づけ、幼児教育全体の枠組みについて具体的な方針などを定め、総合的な視点からの幼児教育を推進します。

⑥幼児の発達に応じた指導の充実【指導室】

- ◇一人ひとりの幼児の成長や発達に応じた支援体制や教育内容の充実を図ります。
- ◇学習意欲や活動意欲の基礎となる運動あそびの充実を推進し、学びに向かう態度の育成を図ります。また、集団の中での主体的な遊びを通して、「生き抜く力」の基礎を培うとともに、幼児期にふさわしい生活のために必要な基本的な習慣や規範意識の芽生えが培われるように支援します。
- ◇本市の豊かな自然環境を生かし、自然体験活動やプログラムの開発を推進し、様々な体験活動の場や機会の充実を図ります。
- ◇教員、保育士等の研修を充実し、資質及び専門性を高めることにより、質の高い幼児教育、保育を目指します。

⑦幼稚園等における家庭教育の推進【生涯学習課】

- ◇基本的な生活習慣や学習意欲の向上を促すため、家庭、地域、教育機関の連携により、幼児期における家庭教育に関する情報発信、広報・啓発活動を推進します。
- ◇認定こども園や幼稚園を幼児教育の拠点と位置づけ、教育相談や交流、研修機能などの充実を図ります。
- ◇社会教育関係団体及び市内各部局との連携や協力を推進します。

⑧幼・保・小連携教育の推進【指導室】

- ◇異年齢交流や合同研修、相互授業参観など同一中学校区における幼・保・小の連携を推進します。また、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの接続を見通した教育課程の編成を推進します。

■ 目指すこと（目標指標）

指標名	指標の考え方	現況値 平成27年 (2015年)	将来値 平成33年 (2021年)
子育て支援コンシェルジュへの相談件数	子育て支援センターの行事や各種健診へのコンシェルジュの派遣等を通し、相談機会の増加を目指す	—	60件/月
子育て支援センター「あいアイ」利用者数	育児の相談や情報提供などの充実を図り、子育て支援センターあいアイの利用者数の増加を目指す	7,874人	10,000人
ファミリーサポートセンターの登録会員数	ファミリーサポートセンターに登録している提供会員、依頼会員の増加を目指す	162人	260人
乳幼児訪問件数 (養育支援訪問事業)	養育支援が必要な家庭に対し、子育ての相談を行う乳幼児訪問件数の増加を目指す	171件	200件
子育て支援情報サイト登録者数	子育てに関するニーズを踏まえ、アプリ等を充実させることで、サイト登録者の増加を目指す	—	300人
子育て情報「はぁとマガジン」の登録者数	市内各支援センターの情報をメール配信する「はぁとマガジン」の登録者の増加を目指す	318人	350人
子育て学習会参加者数	子どもや子育てに関する子育て学習会の充実を図り、子育て学習会への参加者の増加を目指す	370人	450人
運動あそびの充実	幼児が7日に60分以上体を動かす日数の割合の向上を目指す ※幼児が体を動かす時間は、環境や天候などの影響を受けることから、屋内も含め7日の生活において、体を動かす合計の時間として設定	67.0%	80.0%

■ 関連事業名

- ① 放課後児童健全育成事業
- ① わが子への未来便事業
- ② 利用者支援事業
- ② 子育て支援事業
- ② ファミリーサポートセンター事業
- ③ 母子家庭高等職業訓練促進給付金等事業

- ③ 母子自立支援事業
- ④ 家庭児童相談事業
- ④ 要保護児童支援対策事業
- ⑦ 家庭教育事業
- ⑦ 子育て相談事業
- ⑦ 園、学校交流事業 など

2

社会を生き抜く力を育てる義務教育の推進

稲敷市の次世代を担う子どもたちの夢と希望を育み、自らの未来を拓いていく力、知・徳・体のバランスのとれた「生き抜く力」を醸成することのできる環境づくりを目指します。また、学校、家庭、地域の連携力を高め、自主的・自立的に生きる“いなしきっ子”を育てます。

急速に変化する時代や教育的ニーズに対応できる児童生徒の育成に努めるため、質の高い教育環境の整備を進めます。

■ 取り組むこと（取組内容）

①総合的な義務教育の推進【教育学務課】

◇教育、学術、文化の振興に関する総合的な施策の大綱である「稲敷市教育大綱」及び教育の振興に関する施策の基本的な方針である「稲敷市教育振興基本計画」に本市における教育の施策全般を位置づけ、学校教育の全体の枠組みについての具体的な方針などを定め、総合的な視点での学校教育を推進します。

②確かな学力を身に付けた“いなしきっ子”^{*}の育成【指導室】

- ◇稲敷市授業スタイル^{*}による授業の改善を図り、主体的、協働的な学びを推進します。
- ◇少人数指導や習熟度別グループ学習、チーム・ティーチングなどの指導方法を積極的に取り入れ、放課後の学習支援など個に応じた指導を行うことで、基礎的、基本的な知識や技能の定着を図ります。
- ◇児童生徒の学力向上に向けて、学習意欲を高め、規律ある学習態度を確実に身に付けさせるため、学校と家庭が連携をしながら、学習習慣の確立に努めます。

③豊かな心をもつ“いなしきっ子”の育成【社会福祉課・指導室】

- ◇児童生徒の人権に関する意識を育成するため、人権教育や「生き抜く力」の重要な要素である豊かな心を育む道徳教育の充実に努めます。
- ◇生徒指導の充実を図るため、いじめ等の問題行動に対応するスクールカウンセラーや学校生活支援員を配置し、心のケアや問題行動等の未然防止や早期発見、早期解決に努めます。また、不登校児童生徒に対して、稲敷市教育センター内の適応指導教室に教育相談員等を配置し、相談事業及び適応指導を行います。
- ◇学校生活の意欲と学級満足度を把握するQ-U調査^{*}を活用し、教員の学級経営力の向上に努めます。
- ◇障がい児の保護者に対し、関係各課が連携し、障がいの早期発見や早期対応、相談機会の提供、相談場所の拡充に努めます。

^{*}いなしきっ子とは、「強い賢い優しい子」のこと。

^{*}稲敷市授業スタイルとは、すべての児童生徒がわかる喜びや学ぶ意義を実感できるよう工夫した授業や問題解決的な学習、体験学習（直接体験）を重視する授業のこと。

^{*}Q-U調査とは、楽しい学校生活を送るためのアンケートで、学校生活意欲と学級満足度で構成され、学級診断アセスメントやいじめ、不登校などの問題行動の予防と対策にもつながる調査のこと。

④健やかな体をもつ“いなしきっ子”の育成【指導室・生涯学習課】

- ◇学校体育の充実を図るため、児童生徒自らが体力を高めようとする体育学習を充実させるとともに、スポーツの楽しさや喜びを味わい、学校生活を豊かにする運動部活動を推進します。
- ◇児童生徒の発達段階等に応じて、正しい生活習慣や心の健康、性に関する指導、薬物乱用防止、生活習慣病、生活安全などについて、知識と実践力を身につけるために学校健康教育の充実をめめます。
- ◇食材の安全確認と地産地消の推進に努めるとともに、調理法の安全確保、添加物などに配慮した安全な食事の提供に努めます。また、児童生徒の健康を保持し、望ましい食習慣の形成と食の自己管理能力を育成するため「食に関する指導」の実践や強化に努めます。
- ◇豊かな人間性を育むため、キャンプ等の環境学習や自然体験学習の充実をめめます。

⑤時代の変化や教育的ニーズに対応した教育の推進【教育学務課・指導室・生涯学習課】

- ◇小中学校における、職場体験活動の充実を図り、自らの意志と責任で、進路を主体的に選択する能力を養うキャリア教育の推進を図ります。
- ◇国際教育の充実を図るため、全小中学校に外国語指導助手（ALT）を配置するとともに、英語検定受験料を補助し、児童生徒の英語力及び学習意欲の向上に努めます。
- ◇地域との連携による学校の防災力強化推進事業やジュニア防災検定推進事業など、防災教育の充実を積極的に推進します。
- ◇地域の伝統や文化、産業について、体験活動をもとに学ぶ郷土教育や、身近な自然資源を題材にした環境教育などの充実を図ります。
- ◇ICTを活用した授業^{*}の推進により、情報活用能力を育てる教育の充実を図ります。
- ◇特別支援教育の充実を図るため、特別支援教育支援員や学校教育支援員を配置し、幼児児童生徒の教育的ニーズに応じた適切な指導ができるよう指導力の向上に努めます。
- ◇市民の参画のもと、子どもたちの学習やスポーツ、文化活動、地域の交流活動等に取り組みます。

⑥質の高い教育環境の整備【教育学務課・指導室・給食センター】

- ◇「稲敷市学校再編整備実施計画」に基づき、小学校の適正配置を進めます。また、中学校においても今後の動向を見ながら再編を検討します。
- ◇学校施設の長寿命化を推進し、老朽化した学校の改修等を行い、安全で快適な学校施設の整備に努めます。
- ◇児童生徒の読書活動を推進するため、市内すべての小中学校に、読書に関する指導協力を行う学校図書館司書を計画的に配置します。
- ◇電子黒板の全学級配置、教職員のスキルアップ研修の実施など、情報教育の充実を図るため、国の「第2期教育振興基本計画」に基づき、学校のICT環境の整備を推進します。
- ◇小中学校通学用スクールバス運行事業及び公共交通利用者通学用定期券無料交付事業などにより、通学時の安全確保や保護者の経済的負担軽減に努めます。
- ◇経済的な理由によって就学困難と認められる小中学校の児童生徒の家庭に、学習に必要な費用の一部を援助する小中学校就学援助費の拡充に努めます。
- ◇経済的理由により就学が困難な大学、短大、専門学校に進学する生徒及び在学している生徒への奨学資金貸与事業について、貸与月額等のアップを図るとともに、奨学生応募のPRに努めます。
- ◇市内すべての幼稚園や小中学校をカバーするセンター方式による給食センターの新設を検討します。
- ◇「稲敷市教育センター」の活用により、教職員の資質や能力の向上を図ります。

⑦生活困窮世帯の子どもに対する学習支援【生活福祉課】

◇生活困窮世帯の子どもが生まれ育った環境によって不利益を被り、学習意欲の欠如及び学校や家庭に居場所を持ってない子どもに対し、「学び直しの場」「安心できる居場所」を提供すると同時に、学校から社会への移行期を支える社会的支援を行います。

■ 目指すこと（目標指標）

指標名	指標の考え方	現況値 平成27年 (2015年)	将来値 平成33年 (2021年)
漢字の読み・書き、四則計算の定着状況 (対象：小学校6年生、中学校3年生)	全国学力・学習状況調査における漢字の読み・書き、四則計算の正答率の向上を目指す	小学校 漢字 80.6% 計算 91.6%	小学校 漢字 87.0% 計算 92.0%
		中学校 漢字 73.7% 計算 74.7%	中学校 漢字 80.0% 計算 82.0%
家庭学習の取組状況 (宿題含む) (対象：小学校6年生、中学校3年生)	学校の授業時間以外に普段1日当たり60分以上勉強をしている児童生徒の割合の向上を目指す	小学校 62.0%	小学校 70.0%
		中学校 55.0%	中学校 80.0%
英検合格者数 (対象：小学校6年生、中学校3年生)	英検5級(小学校)、英検3級(中学校)の合格者数の増加を目指す	小学校 8人(3%)	小学校 50人(15%)
		中学校 65人(19%)	中学校 120人(40%)
ジュニア防災検定合格者数	小学校5年生のジュニア防災検定合格者数の割合の向上を目指す(平成27年(2015年)はモデル校での実績)	100% モデル校1校	100% 市内全小学校
電子黒板の導入台数	小中学校普通教室に各1台の整備を目指す	小学校4台 中学校8台	小学校65台 中学校26台
地域の行事に参加しているという児童生徒の割合 (対象：小学校6年生、中学校3年生)	全国学力学習状況調査結果における地域の行事に参加しているという児童生徒の割合の向上を目指す	小学校 73.1%	小学校 80.0%
		中学校 49.1%	中学校 60.0%
Q-U調査による学校生活満足度の割合	学校生活意欲と学級満足度の向上を目指す 全国平均 小学校(低学年)42.0% 小学校(高学年)39.0% 中学校 37.0%	63.2% 61.5% 52.2%	65.0% 63.0% 55.0%
読解力の向上に資する児童生徒の読書習慣の定着状況	「みんなにすすめたい一冊の本」年間目標値達成率(小学校50冊、中学校30冊)の向上を目指す	小学校 64.5%	小学校 65.0%
		中学校 29.2%	中学校 30.0%
体カテスト総合評価の割合	体カテストでの総合評価A+Bの割合の向上を目指す	小学校 52.8%	小学校 60.0%
		中学校 60.2%	中学校 65.0%
教育施設の改修施設数	長寿命化改修、大規模改修を進め、安全で快適な学校施設の増加を目指す	15施設	32施設

※ ICTを活用した授業とは、情報通信技術（ICT）の活用方法を教育の一環として取り入れた教育のこと。（例えば、電子黒板を活用した授業など）

■関連事業名

- ①教育振興基本計画策定事業
- ②稲敷市学力診断テスト事業
- ②学びの広場サポートプラン事業
- ②チーム・ティーチング非常勤講師配置事業
- ③心理相談員派遣事業
- ③スクールカウンセラー配置事業
- ③学級経営充実事業(Q-U調査)
- ③学校生活支援員配置事業
- ④子供の体力向上支援事業
- ④運動部活動外部指導者派遣支援事業
- ④食育推進事業
- ④アウトドア教室推進事業
- ④自然体験交流事業
- ⑤外国語指導助手(ALT)配置事業
- ⑤英語検定料補助事業
- ⑤防災教育推進事業
- ⑤理科支援員配置事業

- ⑤ふるさと学習支援事業
- ⑤放課後子ども教室推進事業
- ⑤学校教育支援員配置事業
- ⑤特別支援教育支援員配置事業
- ⑥学校再編事業
- ⑥学校施設整備事業
- ⑥学校図書館司書配置事業
- ⑥無線LAN整備事業
- ⑥タブレット端末導入事業
- ⑥小中学校電子黒板等購入事業
- ⑥就学援助費助成事業
- ⑥小中学校通学用スクールバス運行事業
- ⑥公共交通利用者通学用定期券無料交付事業
- ⑥奨学資金貸与事業
- ⑥学校給食センター運営事業
- ⑥教育センター運営事業
- ⑦子どもの学習支援事業 など

第1編
総論

第2編
基本構想

第3編基本計画
重点プロジェクト

第1章
子育て・学び

第2章
福祉・健康

第3章
生活安全・環境保全

第4章
都市基盤・産業観光

第5章
市民参画・行財政

資料編



第2節 楽しく学び続ける

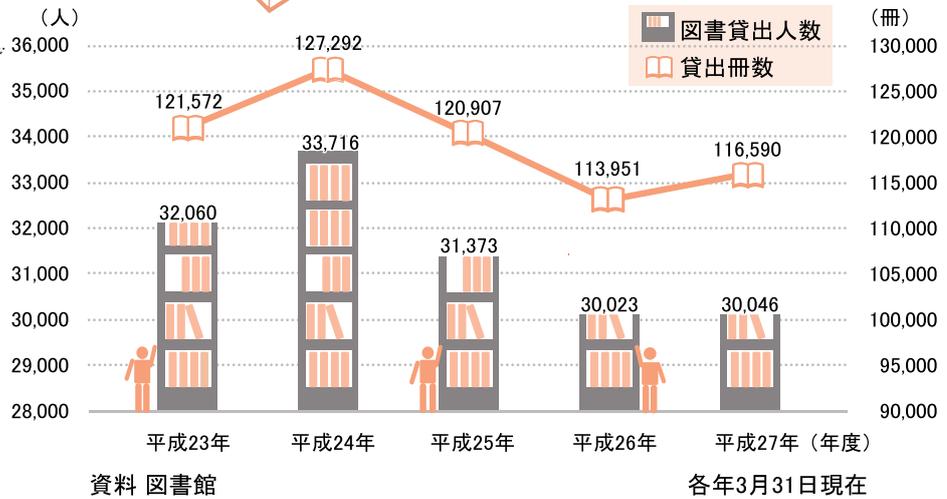
環境をつくりましょう!

すべての市民が生涯を通じて、自由に学び、スポーツを楽しむ文化的・健康的な暮らしが実現できるといいですね。そのため、市民が主体となった活動を積極的にサポートし、地域の人々が気軽に講座や教室に参加できる環境づくりを目指します。

■今の稲敷をみると?

図書貸出人数、貸出冊数は減少傾向にありましたが、平成27年度(2015年度)に増加に転じています。
蔵書数では、一般書が約10万点、児童書が約5.4万点、視聴覚資料は約8,000点(CD約5,000点、DVD約2,000点、ビデオ約1,000点)などとなっています。

図書利用状況と貸出冊数



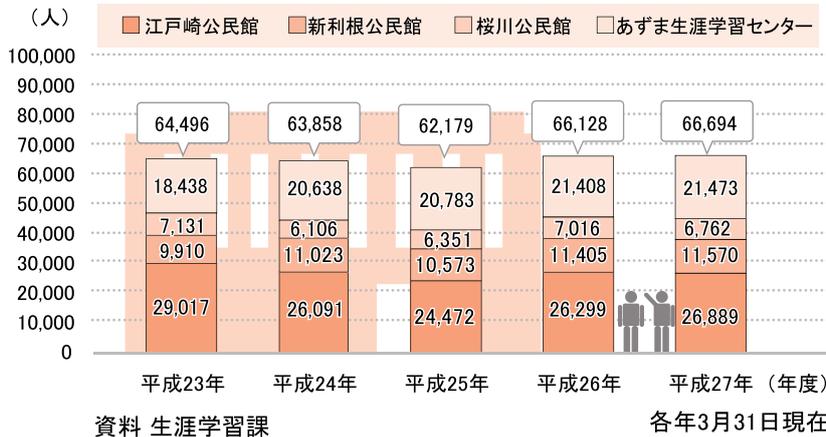
図書館蔵書数

一般書	児童書	郷土行政資料	視聴覚資料	参考資料
100,135 点	53,563 点	3,311 点	8,282 点	3,343 点

資料 図書館

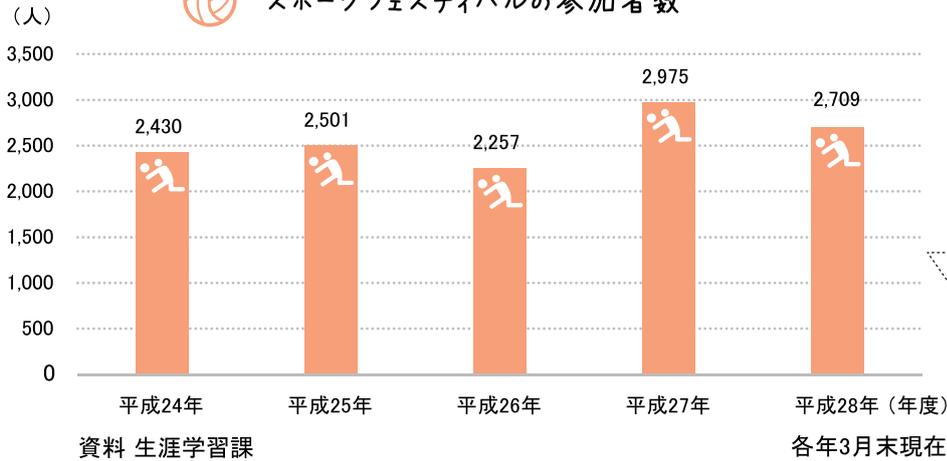
平成28年7月末現在

公民館利用者数



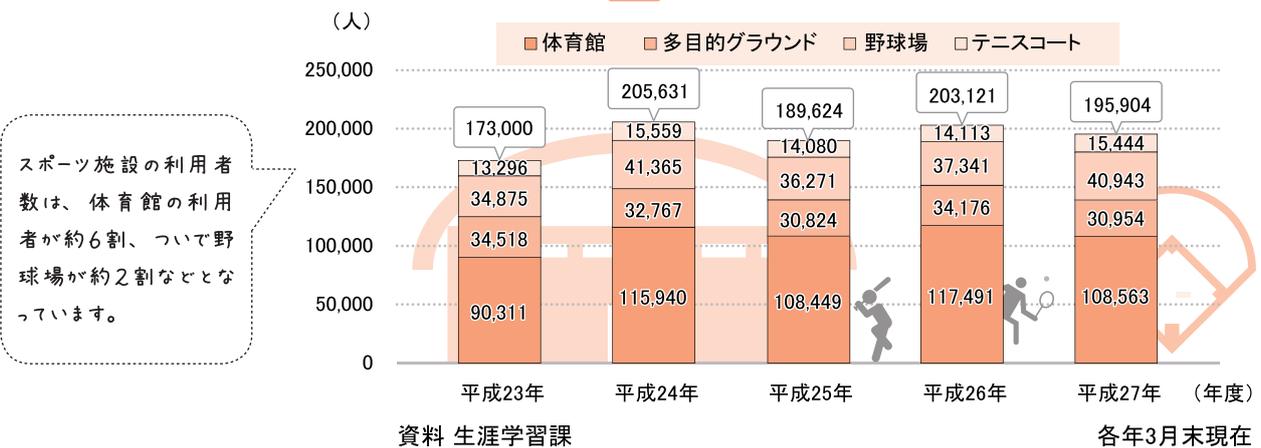
公民館の利用者数は、ほぼ横ばいで推移しています。
市民の学習活動を支援する地域に密着した施設として今後もさらなる充実を図っていくことが重要です。

スポーツフェスティバルの参加者数



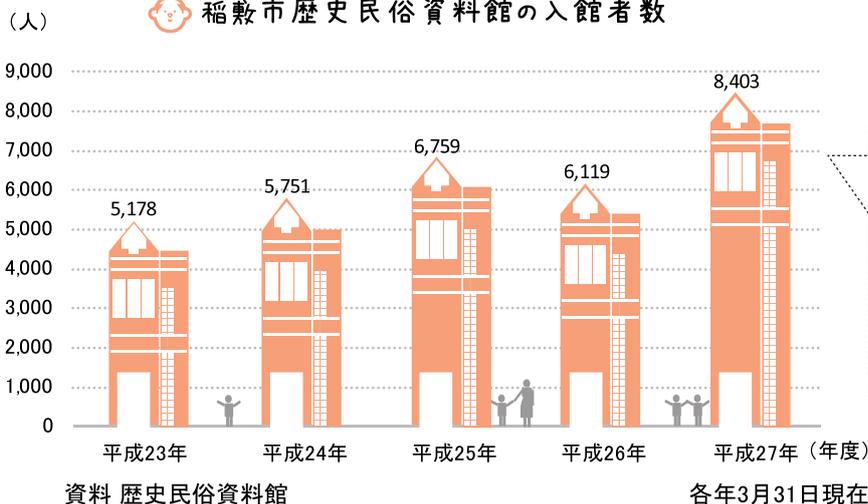
過去5年間のスポーツフェスティバルの参加者は、年平均約2,600人です。

スポーツ施設利用者数



スポーツ施設の利用者数は、体育館の利用者が約6割、ついで野球場が約2割などとなっています。

稲敷市歴史民俗資料館の入館者数



歴史民俗資料館の入館者数は平成23年度(2011年)からの5年間で1.6倍に増加しています。今後も企画展示の充実や普及活動により、子どもから高齢者までの誰もが市の歴史や文化に触れる機会を増やすことが望まれます。

1

市民主体の生涯学習社会の構築 (図書館・公民館・青少年健全育成)

だれもが、いつでも、自由に、学び・交流できる環境づくりを目指します。そのため、市民のライフステージなどに合わせた講座や教室の充実に努めるとともに、市民の主体的な活動を積極的に支援します。また、地域のすべての人に学習する機会を提供し、気軽に利用できる生涯学習(社会教育)の拠点として親しまれる公民館・図書館づくりを目指します。

家庭、地域、学校、行政が協力し、青少年のための健全な社会環境づくりを進めます。

■ 取り組むこと(取組内容)

①市民の生涯学習支援(各種講座・教室の支援)【生涯学習課】

- ◇市民が自主的に取り組む生涯学習活動に対して、積極的な育成や支援に努めます。
- ◇社会教育の拠点となる江戸崎公民館と、あすま生涯学習センターを軸に公民館活動を展開します。
- ◇高齢化社会に対応した「いなしき大学」の活動の促進や、市民講師型講座「いなしき・るーむ」を推進し、生涯学習とスポーツとの連携充実に努めます。
- ◇生涯学習活動に関する市民ニーズの把握に努め、各年代層やライフステージに対応した講座や教室の開設と内容の充実に努めます。また、これまで生涯学習活動に関わりのなかった市民の参加を促すため、休日や夜間の講座開設などを検討します。
- ◇趣味や実用を目的とした利用者の多い講座や健康増進を目的とした講座については、更なる充実に努めるとともに、ニーズに応じた題材や地域特性に応じた講座、教室についても充実に努めます。
- ◇市内で活躍する、優れた技能を持つ人材の発掘に努め、生涯学習人材バンク(リーダーバンク)を効果的に活用し、生涯学習活動の更なる活性化を図ります。
- ◇「江戸崎公民館整備基本計画」を策定し、老朽化した建物の改修やバリアフリーに対応した施設整備、設備の更新などを計画に基づき順次進め、安全で利用しやすい環境づくりに努めます。

②図書館サービスの充実【図書館】

- ◇市民が利用しやすい図書貸出しを進めるため、総合的な図書館ネットワークの効率的な運用を行い、メール予約やリクエストにより、利用者が求める資料を迅速に提供できるよう図書サービスの充実に努めます。
- ◇茨城県図書館情報ネットワークによる県内の図書館等との本や視聴覚資料の相互貸借、それに伴う配送体制を維持していきます。
- ◇利用者のニーズを把握し、幼児から高齢者まで、各年代層に対応した蔵書及び社会情勢にも配慮した蔵書の整備を進めます。
- ◇学校図書館と連携し、児童生徒の読書活動を推進します。
- ◇IT利用環境などに対応した館内設備の整備と併せて視聴覚ソフトの充実に努めます。また、広報紙、ホームページ、ブログなどを活用し、新刊や新着情報、各種行事の開催などについての情報提供を行います。

- ◇読み聞かせ、おはなし会の実施など、子どもの読書活動の充実及び読み聞かせボランティアの育成を図ります。
- ◇ユニバーサルデザイン※に配慮した館内施設整備により誰もが快適に利用できる環境づくりに努めます。

③青少年対策の充実【生涯学習課】

- ◇青少年育成稲敷市民会議による青少年主張大会の開催支援と啓発や普及に努めるとともに、青少年相談員による相談会の実施、有害図書や違法看板の撤去、映画会の実施、自動販売機の規制や立ち入り調査など、環境浄化活動の促進に努めます。
- ◇青少年に関わりの深い業種の店舗に対し、「青少年の健全育成に協力する店」の登録を推進し、青少年のための健全な社会環境づくりに努めます。
- ◇学校や地域など各種団体と協力し、夏まつりの巡視運動や大型商業施設での街頭啓発キャンペーンを実施します。

■目指すこと(目標指標)

指標名	指標の考え方	現況値 平成27年 (2015年)	将来値 平成33年 (2021年)
いなしき大学の受講者数	いなしき大学の受講者数の増加を目指す	272人	380人
公民館講座の受講者数	公民館講座の参加延べ人数の増加を目指す	2,004人	2,400人
市民一人当たりの図書貸出し冊数	市民一人当たりが一年間で借りる図書の冊数の増加を目指す	2.8冊	3.0冊

■関連事業名

- ①生涯学習講座開催事業
- ①江戸崎公民館施設維持管理事業
- ①あずま生涯学習センター施設維持管理事業

- ②図書館サービス事業
- ②図書館施設整備事業
- ③青少年健全育成事業 など

※ユニバーサルデザインとは、障がいの有無にかかわらず、全ての人にとって使いやすいよう意図して作られた製品・情報・環境のデザインのこと。

2

市民が楽しく取り組める生涯スポーツの推進

市民のスポーツへの関心を高め、心身ともに健康で活力ある生活が形成されるようなスポーツ環境の整備を進め、障がいの有無にかかわらず誰もがスポーツを楽しめる環境づくりを目指します。

■ 取り組むこと（取組内容）

①生涯スポーツ・レクリエーションの推進【生涯学習課・社会福祉課】

- ◇「稲敷市スポーツ振興計画」に基づき、市民のスポーツ活動、健康づくりを推進します。
- ◇市民だれもが楽しく参加できるよう「稲敷市民スポーツフェスティバル」をさらに充実させるとともに、日ごろの活動成果を生かす機会として、各種スポーツ大会を開催します。
- ◇市内で活動する体育協会やスポーツ少年団の活動支援を図ります。
- ◇スポーツ研修会を開催するとともに、多様なスポーツ教室等の実施や指導者の育成、確保に努めます。
- ◇障がいの有無にかかわらずだれもがスポーツを楽しめる環境づくりや、障がい者スポーツに対する理解を深めるための啓発活動など、障がい者スポーツの普及促進に努めます。
- ◇稲敷ふるさと大使である茨城ゴールデンゴールズの活動環境の整備に努めます。

②国体やオリンピックを契機としたスポーツ意識の向上【生涯学習課・政策企画課】

- ◇2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を市民のスポーツ意識の向上を図る契機と捉え、事前キャンプの誘致に取り組みます。
- ◇いきいき茨城ゆめ国体2019や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会といったスポーツのビッグイベントの開催を通じ、スポーツ環境の整備を進め、スポーツによる地域活性化を図ります。

③生涯スポーツ施設の整備及び維持管理【生涯学習課】

- ◇桜川総合運動公園はフィールド競技大会等ができる社会体育施設の活動拠点として位置づけられているため、「桜川総合運動公園整備基本計画」を策定し、計画に基づき整備を推進します。
- ◇江戸崎体育館は、2019年開催のいきいき茨城ゆめ国体において、トランポリン競技の会場となることが決まっており、屋内競技大会等ができる社会体育施設の活動拠点として、改修や修繕を計画的に推進します。
- ◇スポーツ施設の管理運営コストなどを十分に勘案し、経年劣化した施設の改修や耐用年数を過ぎた設備の更新を行い、利用しやすく管理しやすい施設整備を推進します。

④スポーツ施設の利用度向上と広報・啓発活動【生涯学習課】

- ◇スポーツ施設利用の利便性の向上と公平性の確保を図るため、インターネットによる空き情報の公開や施設予約方法の簡素化を進めます。
- ◇市民の多様なスポーツニーズに対応するため、広報紙やホームページなどの情報媒体を通してスポーツに関する情報の提供に努めます。

■ 目指すこと（目標指標）

指標名	指標の考え方	現況値 平成27年 (2015年)	将来値 平成33年 (2021年)
スポーツフェスティバルの参加者数	各種目の検討に加え、より充実したイベントとして参加者を募り、参加者の増加を目指す	2,975人	3,500人
スポーツ少年団の団員数	スポーツ少年団(児童・生徒)の活動を促進し、団員数の減少(▲15%)の抑制を目指す	585人	500人
スポーツ教室の満足度	幅広い世代に対応した教室の企画などにより、スポーツ教室の満足度の向上を目指す	40.0%	50.0%
江戸崎体育館の整備率	平成31年(2019年)に開催される国体に向けた会場施設整備を計画的に進めることを目指す	0%	100%
社会体育施設の利用者数	施設管理システムにより、利用者の利便性を図り、社会体育施設の利用者の増加を目指す	192千人 (延べ人数)	220千人 (延べ人数)

■ 関連事業名

- ① スポーツ大会事業
- ① スポーツ教室事業
- ② 東京オリンピック・パラリンピック誘致推進事業
- ③ スポーツ施設LED化事業

- ③ 桜川運動公園施設改修整備事業
- ③ 江戸崎総合運動公園整備事業
- ④ スポーツ施設管理システム運用事業 など

3

地域文化の継承 (歴史・文化財、芸術・文化、国際化・国際交流)

次世代を担う子どもたちが「稲敷文化」を引き継いでいけるよう地域の歴史や文化に気軽に触れ、楽しく学べる環境づくりを目指します。そのため、市民の文化活動を支援し、様々な文化事業を展開します。

また、市民の国際感覚の醸成及び向上を図るため、国際交流活動を積極的に支援します。

■ 取り組むこと(取組内容)

①芸術・文化活動の支援と次世代への継承【生涯学習課・歴史民俗資料館】

- ◇市民が地域の中で質の高い芸術や文化に触れる機会を創出するため、様々な文化事業を展開するとともに、芸術・文化活動の支援として、市内で活躍する文化団体の活動の支援、文化祭や各種作品展、発表会などの活動機会の拡充を図ります。
- ◇次世代を担う子どもたちに、稲敷市民としての誇りやかけがえのない故郷を継承していくため、地域の伝統を大切にするとともに、伝統芸能の保存活動などに努めます。
- ◇稲敷市歴史民俗資料館の展示のリニューアルを推進し、市民の郷土に対する知識や理解を深めるための企画展等や市民参加を促進する史跡巡りなどのイベントを積極的に開催するとともに、文化財案内板や説明板を設置し、周知を図ります。
- ◇収集、蓄積された郷土資料のデータベース化を促進するとともに、解説書やパンフレットなどの充実を図り、インターネットなどを活用した情報の公開や活用を促進します。
- ◇郷土資料の収集に努め、市民ニーズの高い企画展示や、見学会を実施するとともに、講座、講演会資料の調査研究活動を行います。

②文化財保護の推進と利活用【歴史民俗資料館】

- ◇埋蔵文化財包蔵地マップの作製や遺跡台帳のGIS^{*}化を整備することにより円滑に文化財の保存を図ります。
- ◇市内の未指定文化財に対する調査の実施と指定物件の抽出や指定に努めるとともに、指定文化財や史跡などへの補助を検討します。
- ◇文化財マップの作製等により、地域の財産として保護や保存への意識を高めるために市民に文化財の周知を図ります。

③国際化・国際交流・多文化共生の充実【市民協働課・その他関係課】

- ◇お互いの文化や習慣の理解を深めるため、国際交流講座などの開設を目指し、地域における国際交流活動の充実に努めます。また、海外で活躍する市民や市内の留学生などの人材を活用し、通訳ボランティアや日本語ボランティアなどの人材育成に努めるとともに、ボランティアやNPO団体などとのネットワークの形成を促進します。
- ◇外国人の暮らしやすい環境づくりのため、公共施設などの外国語表示や生活に必要な情報の発信などに努めます。また、成田空港に近い立地特性を生かし、県や周辺市町村と連携を図りながら外国人観光客の受入体制の整備を促進し、交流人口の拡大に努めます。

- ◇本市の次世代を担う子どもたちの国際理解の醸成と国際化に向けた人材育成を図るため、市内在住の中高生を対象にカナダのサーモンアーム市との姉妹都市交流を推進します。
- ◇姉妹都市との教育・文化交流に加え、スポーツや経済、医療など様々な分野においても交流活動が展開できるよう事業連携を検討します。

■ 目指すこと（目標指標）

指標名	指標の考え方	現況値 平成27年 (2015年)	将来値 平成33年 (2021年)
文化団体数	活動団体の発展及び文化団体数の増加を目指す	165団体	170団体
稲敷市歴史民俗資料館の年間入館者数	市の歴史・文化に関する質の高い企画展示の充実と普及活動により、来館者数の増加を目指す(将来的に年間10,000人を目指す)	8,403人	9,000人
稲敷市歴史民俗資料館の企画への小中学生の参加者数	勾玉づくり教室、職場体験等の学習支援や、市民ニーズの高い歴史講座、史跡めぐり、古文書講座等の開設等の教育普及の強化と充実を図り、小中学生の参加者の増加を目指す	589人	1,000人
地下埋蔵文化財有無の照会事務の年間の対応件数	埋蔵文化財包蔵地マップの整備や台帳のGIS化を図り、円滑な事務対応の向上を目指す(試掘調査を含む)	212件	300件
国際理解・国際交流に関する市民の満足度	地域社会での国際化や国際交流の市民の満足度(「満足」と「やや満足」の合計)の向上を目指す	3.9%	30.0%

■ 関連事業名

- ①文化協会各種事業
- ①郷土資料等企画展示保存事業
- ①教育普及・郷土資料収集保存事業
- ①郷土資料等調査研究報告事業

- ①稲敷文化学習支援事業
- ②埋蔵文化財有無の照会等事務対策事業
- ②文化財保存普及事業
- ③国際理解・国際交流事業 など

※ GIS とは、地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ（空間データ）を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術のこと。（地理情報システム Geographic Information System の略）。

